KAWASAKI CLUB NEWS
vol.14
JUN. 2014

『川崎学園総合グラウンド』平成27年春 竣工

完成イメージ図

建学の理念にある「体をつくる」をより充実させるため、学園内の運動施設の整備が進んでいます。

かねてから待望久しい医療福祉大学隣接のグラウンドが、『川崎学園総合グラウンド』として、7月着工、来春竣工の予定です。全天候型舗装の400mトラック(6レーン)、インフィールド部にサッカー・ラグビー競技に対応可能なロングパイル人工芝、照明6基を備え、走り幅跳び・走り高跳び・棒高跳び・砲丸投げ等が可能な仕様で、学園全学生・教職員の共用グラウンドとなります。

職員駐車場の北側と西側には、『川崎学園サブグラウンド』、『川崎学園西グラウンド』が既に完成しており、工事期間中は代替グラウンドとして使用されます。

これらの施設の更なる有効利用を図るため、4月から、全ての運動施設の名称を“川崎学園”を冠したものに改めました。また、運用調整や利用促進を図る部署として運動施設利用支援室が大学事務局内に新設されました。

川崎医療短期大学 第三者評価「適格」認定

川崎医療短期大学(以下「本学」)は、一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受審し、3月13日付で「適格」の認定を受けました。

本学は、全国初の総合医療系の短期大学として昭和48年に3学科で開学。その後の学科増設や川崎医療福祉大学との連携による幾度かの改組・転換を通じて発展し、現在は看護科、臨床検査科、放射線技術科、医療介護福祉科、医療保育科の5学科を有しています。

常に時代の要請に応える人材の育成に取り組んでおり、最近では、医療保育科に病児保育コースと発達障害児保育コースを設け、また、医療介護福祉科では、新たに短期大学士(医療介護福祉)の学位取得が可能になりました。

第三者評価は平成18年度の第1回に続き2回目ですが、今回は次のような点も高い評価を受けました。

- 国家試験の結果も全国平均を超える成績で、学習成果が保証されている。
- 医療保育科は、公務員保育職正規採用試験の合格が毎年卒業生の約30%と高い。
- 平成22年度文部科学省GP(Good Practice)事業に選定された「学士力向上のための統合的教育戦略」プロジェクトを実施し、同省の事業終了後も継続して改善を図っている。
- e-ポートフォリオを活用し、かつ保護者まで拡大して運用されている。㈜
- アドバイザー制や担任制を通して、入学から卒業まで実習や資格取得、就職等でも教員が学生と良く関わり支援している。

㈜ e-ポートフォリオは、学業および学生生活を支援するためのシステムで、学生の出席状況や成績等を随時インターネットで確認できる。メールで担任に相談することも可能。学生と教員の間での利用が一般的だが、本学は短期大学で唯一、保護者も利用できる。

このようなきめこまやかな教育・指導と、学科によっては在学中の約半分の時間を充てる附属病院での質の高い臨地実習により、即戦力になりうる人材の育成を行っており、年間2,500を超える施設の求人を得、就職率は毎年100%を達成しています。

このような不断の取組により質の高い教育が保たれている本学は、開学41年の伝統の強みと恵まれた教育環境を生かし、学園全施設と連携しながら、教職員と学生が力を合わせ、更に前進を続けていきます。

なお、第三者評価は、川崎医療福祉大学が平成26年度、川崎医科大学が平成27年度に当たっており、準備を進めています。

message

新年度スタートにあたっての式辞・訓辞から抜粋してご紹介します。

新入職員辞令交付式　理事長 訓辞から

川崎学園　理事長　川﨑誠治

「川崎学園へのご就職おめでとうございます。心から歓迎を申し上げます。

平成26年度、新年度の始まりにあたり、205名の看護師さん、41名の研修医の皆さんをはじめ、312名の新進気鋭の皆さん方をお迎えし、共に学園の更なる飛躍を目指すことができることは大きな慶びであります」

「患者さんの立場になって、十分考えながら仕事をしていただきたいと思います。また、そのためには、自分の体、心が健康でなければなりません。自分の健康管理にも十分に気をつけて、しっかり頑張ってください。それぞれの職場で、『学校は学生さんのためにある』、『病院は患者さんのためにある』ということを絶えず心がけ、学生さんや患者さんに信頼される職業人として、また、社会から尊敬される立派な社会人として大きく飛躍していただきたいと思います」

入学式式辞から

川崎医科大学　学長　福永仁夫

「『人間(ひと)をつくる』とは、知性と道徳性を求め、医の倫理を体得すること。『体をつくる』とは、重大な使命を果たすため、強健な志と体力を養うこと。『医学をきわめる』とは、終生研究マインドをもつこと。自ら学ぶ習慣を確立し、医学、医療は病める人のためにあるということを認識し、全人的医療のできる心優しい良医を目指し、多くの国民の期待に応えられるよう全力を尽くして医学を修めてください」

川崎医療福祉大学　学長　椿原彰夫

「皆さんには卒業したのちに進むべき医療福祉専門職をいち早く決定し、その資格を取得するための方策を早急に計画していただきたい。一流の医療福祉人となるためには、早く目標を定めることをお勧めします」

川崎医療短期大学　学長　山口恒夫

「時間は有用な資源であり、時間を有効に使えるかどうかによって人生は大きく変わってきます。若いうちは時間の経過が遅いと感じられるものですが、若い今こそ意識して計画を立て邁進することが肝要です」

川崎リハビリテーション学院　学院長　花山耕三

「皆さんは、リハビリテーションチームの専門職として、まず障がいをもった患者さんの思いを理解し、信頼を得ること。次にチームの一員として、チームがうまく動くように貢献することが重要です。そのためには、人とかかわる十分なコミュニケーション能力、誠実な態度等をもつことが必要です」

院内広報誌巻頭言から

川崎医科大学附属病院　院長　園尾博司

“困難に立ち向かう～自らを変え、チーム力を生かす～”

「厳しい環境のなかで生き残るには何が大切であるか。進化論で有名なダーウィンは、厳しい環境変化に対して生き残るものは、『最も強いものでもなければ、最も知能の高いものでもない。変わりゆく環境に最も適応できるものである』と言っております」

「難しいことは必要ありません。まず、『気持ちのよい挨拶と笑顔』のコミュニケーションをもつことです」

「我々職員の良いコミュニケーション力をもとに、患者さんの心に寄り添い、気持ちを共有することで、病院をさらに良くしていただきたいと願っています」

新入職員オリエンテーション訓示から

川崎医科大学附属川崎病院　院長　角田 司

「本年度は、新卒者110名に加え新任者33名と、合計143名もの新しい仲間をお迎えし、大変うれしく、また頼もしく思っています。待望の新病院は平成28年8月完成予定です。皆さんには、それまでに力をつけて、実力を発揮していただきたいと思います。そのためにはしっかりと勉強し技術を身に付けるとともに、患者さんの後ろには家族がいることを忘れず、常に患者さんの立場に立って行動してください。『病院は患者さんのためにある』ということをしっかりと認識され、立派な医療のスペシャリスト、また常識ある医療人になられることを願っています」

川崎医科大学附属高等学校　校長　新井和夫

「皆さんの高校での目標は『良医』となるための基礎をしっかり培うことです。この3年間は、将来の基礎を培い、視野を広げ、可能性を伸ばし、心身ともに成長していく大切な時期です」

「友情を育んでください。未来を目指して、共に頑張りましょう」

KAWASAKI CLUBラウンジから外来中庭を望む

新施設長メッセージ

川崎リハビリテーション学院
学院長　花山耕三

当院は、昭和49年に設立され、平成25年には40周年を迎えました。すでに1,781名の理学療法士・作業療法士を輩出しており、全国で数多くの卒業生が指導的立場に就いて活躍しています。

近年、医学は長足の進歩を遂げ、リハビリテーションの世界にも新しい技術や概念が入ってきています。そして、リハビリテーション医療は新たなチャレンジを続けています。また、わが国の社会や医療・福祉にかかわる各種制度も変化し続けています。そのような中、理学療法士、作業療法士はもとより医療福祉に携わる者に要求される知識の量は年々増え続けているとともに、新しいものを吸収する必要に迫られています。おそらく各方面で活躍される卒業生にとりましても、生涯学習が必要なことを実感されていると思います。

その一環として、セミナー情報の発信及び図書館の利用、また、組織の枠を超えた相互のネットワークづくりなどをご検討されてはいかがでしょうか。「KAWASAKI CLUB」の活用が、生涯教育・学習、情報交換、交流にお役に立てれば幸いです。

（平成26年4月1日就任）

川崎医科大学附属川崎病院
新築工事起工式を挙行

起工式翌日の2013/9/27山陽新聞朝刊より

地域共生 高度医療を
川崎病院起工、16年開院

新川崎病院の起工式でくわ入れをする川崎理事長

老朽化などに伴い、岡山市北区中山下の旧深柢小跡地に移転新築する川崎医科大付属川崎病院（同所）の起工式が26日、同小跡地で行われた。「地域との共生」をコンセプトに、救急・高度専門医療の提供に加え、施設開放などによる災害対応機能を充実。2016年秋の開院を目指す。

現在地から約50メートル南東に移る新病院は、鉄筋コンクリート地上15階（高さ約70メートル）地下2階。延べ床面積は現在の3倍以上の約7万8千平方メートルとなる。

総合診療科と救急科を新たに立ち上げ、現行の総合内科、総合外科、整形外科、小児科などと合わせて21診療科体制にする。704床（計画段階）の病室は、個室と4人部屋のみとし、ゆとりある環境を確保。がんの早期発見に役立つ「PET-CT」（陽電子放射断層撮影装置）など最新の機器を導入するほか、医師や看護師の育成にも取り組む。

「地域共生」では、住民にも開放する多目的ホールと集会室を設ける上、災害対応として屋上にヘリポートを新設、芝生広場も含めた施設は市民の避難場所に使用する。総工費は約250億円。

起工式には関係者ら約60人が出席し、神事で工事の安全を祈願。運営する川崎学園の川崎誠治理事長が「病院は患者のためにあるという理念をさらに充実したものとするため、職員一丸となって準備したい」と述べた。

川崎学園は昨年2月、旧深柢小跡地（閉校時は岡山中央南小）の定期借地契約を所有者の岡山市と締結。旧校舎の解体と埋蔵文化財調査を終え、建設の準備を進めていた。

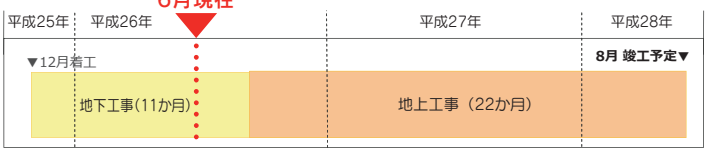
新川崎病院の完成予想図

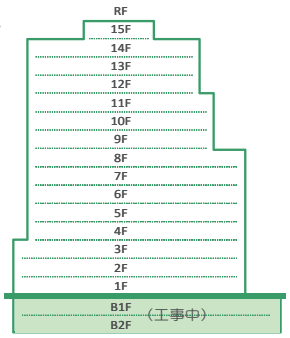
新築工事進捗状況

起工式後、準備工事を経て昨年12月から建築工事がスタート。2月から着手している掘削工事は現在約80％が終了。北側（あくら通り側）では、掘削が完了し、深さは約11mに達しました。掘削工事は、引き続き南側方面に進められ、7月上旬には終了する予定です。その後、基礎工事を行い、地下躯体工事に取り掛かり、10月には地上躯体工事へ移行します。

また、附属川崎病院の職員を対象とした工事現場見学会を開催しました。

スケジュール





学園の今（H25.9月～H26.6月）

◆医療短期大学 上海健康職業技術学院 師生訪問団が初来学（H25.9/12～14）
◆附属川崎病院 新病院起工式（9/26）
◆医療短期大学 創立40周年記念講演会（9/28）
◆第39回 川崎学園祭（10/12～13）
◆医科大学 市民公開講座「特別推進研究成果報告」（10/13）
◆附属病院 開設40周年記念「医療連携懇話会」（11/7）
◆山陽新聞社との包括的連係協力に関する協定調印式（11/11）
◆リハビリテーション学院 創立40周年記念式典（11/15）
◆「学園防災の日」（H26.1/20）
◆両附属病院 医療ネットワーク岡山「晴れやかネット」運用開始（2月）
◆オックスフォード大学GTCとの交流シンポジウム（3/18）
◆ハーバード公衆衛生大学院施設見学（3/19）
◆医科大学 市民公開講座「がん治療の最前線」（3/23）
◆医療福祉大学 豪グリフィス大学と交流協定締結（4/15）
◆上海健康職業技術学院 管理事務職員が研修に来学（5/12～6/7）
◆6月1日、45年目の川崎学園創立記念日

川崎医科大学の地域貢献

今年開学45年目を迎えた川崎医科大学の取組が、創立記念日の6月1日、山陽新聞で紹介されました。

人間性豊かで全人的医療ができる良医を育成し、4千人を超える卒業生を輩出、その多くが地域医療の第一線で活躍している。医師の地域偏在および診療科偏在への対応として入学試験に『地域枠』を設け、また、救急科や小児科、産婦人科といった特定の診療科を志す学生への奨学金制度を設けている。開学当初からの先進的な教育の取組、米国のレジデント教育制度の導入、OSCE（オスキー）の日本初の導入。附属病院は、岡山県で初の救命救急センター、高度救命救急センターの指定を受け、昨年は2万5595人の救急の受入れをしている、等々が紹介されました。

（※紙面は、川崎学園HPのNews&Topicsに掲載されています）

地域医療を担う良医を育成

川崎医科大学

大学入試 独自に「岡山県」「中国・四国」地域枠

臨床教育のパイオニア

地域に貢献する卒業生

2014/6/1 山陽新聞朝刊掲載

診療科ご案内 川崎医科大学附属病院 産婦人科

産婦人科は、女性の生涯の健康をサポートする診療科です。当院の産婦人科では各領域の専門医が外来診療を担当しています。

産科は、妊娠・出産を安全かつ快適に経過できるよう支援しています。急変に対しても対応できるように新生児科・麻酔科・手術室とも連携を図っています。

婦人科は、子宮筋腫・卵巣腫瘍などの良性疾患、子宮がん・卵巣がんなどの悪性疾患の診断・治療を行っています。治療にあたっては十分な説明を行った上で患者さんに最も適した治療を行っています。内視鏡を用いた低侵襲手術も積極的に行っています。

月経異常、赤ちゃんができにくい不妊症、流産を繰り返す不育症、更年期障害に対する専門外来も設けています。高齢女性に増加している尿失禁や子宮脱の専門外来も毎月第1木曜日に設けています。

3人の教授を中心に、女性の生涯の健康をサポートしています。

専門外来ご案内 川崎医科大学附属川崎病院 乳房オンコプラスティックサージャリー外来

当院では、乳腺専門医と形成外科専門医の連携したチーム医療システムを構成しており、乳房再建を含めた幅広い種類の乳房手術に対応可能で、昨年より乳房オンコプラスティックサージャリー外来を開設しています。なお、新型のインプラントを保険診療で使用する施設認定は岡山県で最初に受けています。

外来日：月曜日、木曜日

がんではないが良性乳房腫瘤があり切除を検討中の方、乳がんの疑いがある方、乳がんと診断されているが腫瘍が大きいあるいは広がっていて切除範囲が大きくなり、十分な術後整容性が保てない方の他、授乳トラブル、乳房形状に関する悩みなどに対する相談も受け付けています。

中島一毅 総合外科学准教授

本学園の教職員が 会長・実行委員長を務めます

学会・研究会名	開　催　日	会　　場	代　　表　　者
日本実験動物技術者協会 第47回 総会 in 晴れの国 岡山	H25.9/27～28	川崎祐宣記念講堂 他	実行委員長：小郷 哲（川崎医科大学 医用生物センター）
平成25年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会	H25.10/3～5	岡山コンベンションセンター	会　長：大熊誠太郎（川崎医科大学 薬理学教授）
第11回 日本運動処方学会大会	H25.10/19～20	川崎医療福祉大学	会　長：長尾憲樹（川崎医療福祉大学 健康体育学科教授）
第25回 日本在宅医療学会学術集会	H26.5/24～25	倉敷アイビースクエア 他	会　長：山口佳之（川崎医科大学 臨床腫瘍学教授）
第84回 日本衛生学会 学術総会	H26.5/25～27	岡山コンベンションセンター	学会長：大槻剛巳（川崎医科大学 衛生学教授）
第22回 日本運動生理学会大会	H26.7/19～20	川崎医療福祉大学	大会長：小野寺昇（川崎医療福祉大学 健康体育学科教授）
日本家族看護学会 第21回 学術集会	H26.8/9 ～10	川崎医療福祉大学	学会長：津島ひろ江（川崎医療福祉大学 保健看護学科特任教授）
日本医療秘書実務学会 第5回全国大会	H26.8/23～24	川崎医療福祉大学	大会長：中村健壽（川崎医療福祉大学 医療秘書学科特任教授）
第30回 日本義肢装具学会学術大会	H26.10/18～19	岡山コンベンションセンター	大会長：椿原彰夫（川崎医療福祉大学 学長）
第52回 日本消化器がん検診学会大会	H26.10/23～26	神戸国際会議場 他	会　長：井上和彦（川崎医科大学 総合臨床医学准教授）
第55回 日本脈管学会総会	H26.10/30～11/1	倉敷市芸文館	会　長：種本和雄（川崎医科大学 心臓血管外科学教授）

国際交流

○英国オックスフォード大学 グリーン･テンプルトン･カレッジ

Kawasaki Roomの机を囲む関係者

川崎学園と英国オックスフォード大学グリーン･テンプルトン･カレッジ（Green Templeton College：GTC）は、長年にわたって緊密な交流関係を築いてきました。

昨年、その象徴とも言うべき“Kawasaki Room”（セミナー室）がGTC内に新設されました。昨年9月28日㈯のオープニングセレモニーには、川崎誠治理事長、椿原彰夫医療福祉大学長、柏原直樹医科大学副学長が招聘され、通訳としてTim Cleminson医療福祉大学講師が同行して訪英しました。

また、3月18日㈫には、GTCからLunt副学長とGibbons教授をお招きし、第1回となる「川崎学園･Green Templeton College交流シンポジウム－a new journey to collaborative pathways－」が開催され、学園内各施設から約140名が参加しました。

翌日は、「教育･教育カリキュラムに関する意見交換会」が開催され、日本と英国それぞれの現状や考え方、取組について活発な意見交換が行われました。

これらの行事により、学園とGTCとの交流は更に幅広く深いものとなり、今後一層の進展が期待されます。

○豪グリフィス大学と交流協定を締結

川崎医療福祉大学は、オーストラリアのグリフィス大学(Griffith University)と交流協定を締結しました。

4月15日㈫、グリフィス大学で調印式が行われ、椿原彰夫学長はSarah Todd副学長と共に協定書に署名しました。

グリフィス大学は、オーストラリア東海岸のブリスベンとゴールドコーストに5つのキャンパスを持つ公立大学で、医学、看護、助産、心理、リハビリテーション、栄養、スポーツ管理、ビジネス、デザインなど、本学が設置する同様の学科を含む300以上の専攻コースが開講されています。学生数は約5万人で、うち1万人が124か国からの留学生です。

ゴールドコースト校には、大学病院とヘルスセンターが昨年新設され、医療分野の専門職種の養成教育と、最先端の医学研究が盛んに行われています。

さっそく今夏から、短期留学生を派遣する予定です。学生たちは、ホームステイをしながら、語学研修、医療制度の講義、大学病院見学、さらには各国からの留学生との交流やオーストラリア原住民の生活文化に関する講義を受けるなど、グローバルな視点から医療をとらえ、異文化理解を深めます。

川崎医療福祉大学では、これまでカナダのヴィクトリア大学をはじめ、世界7か国7校と交流協定を結び、研修や留学などを積極的に行ってきましたが、さらに国際交流が進むことになります。

川崎医科大学 現代医学教育博物館

「サイエンスアゴラ賞」受賞

昨年11月9日㈯･10日㈰、東京お台場にある日本科学未来館など6か所を会場として『サイエンスアゴラ2013』が開催され、現代医学教育博物館（通称「MM」“えむえむ”）の出展が見事「サイエンスアゴラ賞」を受賞しました。

サイエンスアゴラは、科学について考える見学者参加型のイベントで、8回目となる今回は過去最多の230余の出展があり、2日間で約8,500人が来場。

MMの展示は、『人体にとりこめ！ ウェルCome噛む消化ランド』のテーマで、消化器エプロン工作や噛む力体験、内視鏡体験など消化に関する内容をパネル、模型、標本などを使って、子どもから大人まで幅広い年齢層に分かりやすく解説。2日間で1,700人を超える見学者がありました。

展示リニューアル

現代医学教育博物館では、2012年の開館30周年を機に、一般見学者を対象とした2階展示室「健康教育博物館」の全面リニューアルを順次進めてきました。

この度は、新たに『病気の予防』コーナーが完成。3つのテーマ「生活習慣」、「感染症とその予防」、「保健」について、病気にならないためのポイントをまとめ、パネル･模型･標本･ビデオなどで一般の方に向けてわかりやすく解説しています。

山陽新聞社と包括的連携協定

昨年11月11日㈪川崎学園において、『山陽新聞社と学校法人川崎学園との包括的連携協力に関する協定』調印式を行い、越宗孝昌社長と川崎誠治理事長が協定書に署名しました。

この協定は、山陽新聞社と本学園が連携・協力して教育・研究の推進、地域社会の発展、医学・医療福祉の充実等に寄与することを目的としたものです。

山陽新聞社と川崎学園は、県内他大学に先駆けて教育・医療福祉・研究等の分野で連携を図ってきましたが、今回の協定締結を受け、情報発信の一層の強化、地域社会の発展及び活性化への貢献が期待されます。

なお、学園内組織として、７つの施設の代表者で構成される「学術広報担当責任者会議」が発足しており、より積極的な学術広報活動が図られます。

インターネットサイト「岡山医療ガイド」の川崎医科大学附属病院・附属川崎病院の各ページには、関連ニュースが多数掲載されています。（ ）は掲載日。

- 〔名医に聞く〕心臓・大血管手術　川崎医大心臓血管外科学　難易度高い再手術（6/17）
- 老年期のストレスと心の健康　川崎医療福祉大リハビリテーション学科（6/17）
- 高齢者の健康と運動　川崎医療福祉大 健康体育学科（6/2）
- 食道がん手術で高い成果　川崎医科大、5年生存率7割超（4/17）
- 川崎医大川崎病院　分娩再開　レベル高い胎児治療　斜視手術数は中四国屈指（4/7）
- 〔名医に聞く〕認知症　川崎医大神経内科学　原因疾患の鑑別診断が大事　研究進む先制医療（3/17）
- フットケアで病変予防を　岡山、川崎病院で初の催し（2/11）
- 胎児の救命率高い手術成功　川崎病院で岡山県内初（1/17）
- 救急分野で先駆的役割　川崎医大病院開院40周年（2013/12/31）
- 「認定医療デザイナー」第1号に5人　川崎医療福祉大（2013/10/17）　他

市民公開講座「がん治療の最前線」

3月23日㈰、川崎医科大学と山陽新聞社の主催によるメディカ健康講座「がん治療の最前線」を岡山県総合福祉会館で開催し、約350名が参加されました。「松岡良明賞」受賞の3名による講演をとおして、がん治療の取組やこれからの医療について理解を深めてもらうことを目的に開かれました。

冒頭、福永仁夫学長が、本講座が川崎学園と山陽新聞社との包括的連携協定締結記念の行事であること、過去40年以上にわたる本学ならびに附属病院、附属川崎病院に対する県民の支援に感謝するとともに、がんについての情報を共有することで県民に貢献したいと挨拶。

第1部では、3名が各専門分野で「がん」をテーマに講演。
川崎医科大学附属病院 園尾博司病院長 ―「がん検診−乳がんを中心に」
消化管内科学 春間賢教授 ―「胃・大腸がん−ここまできた診断と治療」
総合外科学 猶本良夫教授 ――――「今、注目の食道がんについて」

第2部では、呼吸器外科学 中田昌男教授を座長に「こんなことが知りたい」と題し、参加者からの事前の質問に3名が答え、ユーモアを交えたわかりやすい説明に、会場からは笑い声も聞かれ、和やかな雰囲気のうちに閉会となりました。

公開講座・セミナーのご案内（7月〜9月）

詳細は、各施設のホームページ等でお知らせいたします。

川崎医科大学附属病院

第15回市民公開講座 がんサロン

『がん治療中に知っておきたい栄養の話』
9月13日㈯ 13:30〜16:00
講師 講演(1) 遠藤陽子（栄養部栄養主任）
講演(2) 山中英治（若草第一病院院長）
会場 川崎医科大学8階ラウンジ
対象 がん患者さんとそのご家族・一般市民
定員 150名
問合せ先 ☎086-462-1111（内線22612）
患者診療支援センター

川崎医科大学附属川崎病院

ヘルスケアセミナー in川崎病院

第3回「生活習慣病を防ぐ〜食べ物の栄養を知ろう〜」
7月12日㈯ 14:00〜16:00
講師 鈴木淑子（栄養部栄養主任）
第4回「その健康法間違っていませんか?」
9月13日㈯ 14:00〜16:00
講師 永冨史子
（リハビリテーションセンター理学療法副主任）
会場 川崎医科大学附属川崎病院 東館9階会議室
対象 一般　**定員** 30名　参加無料　**申込必要**
問合せ先 ☎086-225-2171 庶務係

せとうちクリニカル・ベストプラクティス・ミーティング

第4回「慢性頭痛の診断と治療 〜予防も含めて〜」
7月26日㈯ 14:00〜16:00
講師 山田治来（内科医長）
第5回「胃ろう・腸ろうへのアプローチ　第3弾」
9月27日㈯ 14:00〜16:00
講師 山辻知樹（外科副部長）
会場 川崎医科大学附属川崎病院 東館9階会議室
対象 外部医療機関等の医師、看護師、臨床工学技士、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等
定員 30名　参加無料　**申込必要**
問合せ先 ☎086-225-2133 地域医療連携室

川崎医療福祉大学

公開セミナー

「自閉症と脳機能」
9月27日㈯ 13:30〜15:00
講師 彦坂和雄（感覚矯正学科教授）
会場 川崎医療福祉大学 講義棟 4602教室
対象 一般、医療従事者、在学生
定員 なし　参加無料　申込不要
問合せ先 ☎086-462-1111（内線54904）
感覚矯正学科 担当：長江

川崎医療短期大学

公開講座

「CT、MRI、PET検査の違いってなんだろう？ ―診療放射線技師の役割―」
8月17日㈰ 10:00〜11:30
講師 荒尾信一（放射線技術科准教授）、池長弘幸（川崎医科大学附属病院診療放射線技師）、吉田耕治（同）、三村浩朗（同）
会場 川崎医療短期大学 体育館101教室
対象 一般、高校生
定員 200名　参加無料　**申込必要**
問合せ先 ☎086-464-1032 公開講座係

在学生も頑張っています

○学生ボランティア「BLS」にAMDAより感謝状贈呈

〔川崎医療福祉大学〕

3月3日㈪、保健看護学科1～4年次生の有志によるボランティア団体「BLS」が、認定特定非営利活動法人AMDA（アムダ）より感謝状を贈呈されました。

「BLS」は、Borderless Supportの略で、「人を思いやる気持ちに境界線はない」という思いを込めています。毎年5月に開催される保健看護学科主催「実習開始式」と「看護の日」イベントにおいて、東日本大震災発生以降、震災による被災者支援の啓発活動および募金活動を毎年実施し、AMDAの被災地支援活動のために寄附しています。今後もさらなる活動が期待されます。

○初めての「スチューデントドクター認定式」を挙行

〔川崎医科大学〕

1月30日㈭午前8時45分、スチューデントドクター1期生となる第4学年の学生102名が白衣に身を包んで医大校舎棟M-911教室に集合しました。

この認定式は、臨床実習を始めるにあたり、スチューデントドクターと称することで医学生が自覚と心構えを再認識することを目的とし、学生が一定レベルの知識と技量を有していることを大学が患者さんに保証するものです。これまでの白衣授与式に改めるものとして今年度より行われました。

福永学長の式辞の後、学生代表に認定証が授与されました。

続いて、附属病院 園尾博司病院長、千田美智子看護部長、附属川崎病院 角田司病院長、新(あたらし)美保恵看護部長の祝辞があり、温かい励ましの言葉の中にも医師としてふさわしい行動をとることの大切さや責任の重さについてお話がありました。

この後、学生全員が起立して「医学知識を深めること、感謝の念を忘れないこと、個人情報を生涯秘匿すること、良医を目指し学び続けること」を宣誓し、決意を新たにしました。

○「輝いてキラリンピック」ボランティア

〔川崎リハビリテーション学院〕

第14回県障害者スポーツ大会「輝いてキラリンピック」の陸上競技が5月11日㈰、カンコースタジアムで開かれ、約700人が熱戦を繰り広げました。今年も運営ボランティアとして1年生48名の学生が参加しました。

「競技の合間、選手と語り合う中で、背景には絶え間ない努力と練習があることを知りました。彼らの思いや希望をバックアップできる理学療法士・作業療法士という仕事の重要性や使命も感じました。この経験を生かして、日々の勉学と技術の蓄積に励み、立派な療法士を目指したいです！」（参加した学生の感想より）

○今回から「継灯式」に

〔川崎医療短期大学〕

昨年11月2日㈯、看護科2年生127名の継灯式が、保護者が見守る中厳かに行われました。これは、ナースキャップの廃止に伴い、前年まで行われていた戴帽・授章式を変更し、本学看護科に40年間引き継がれてきた「看護の灯」を受け継ぐ式としたものです。

学生は主任からキャンドルを受け取ったあと、看護の灯火を戴き、ナイチンゲール誓詞を唱和しながら医療者としての使命感を新たにしました。

学生玄関の階段横に平成18年に第2看護科が閉科した際に建てられた「看護の灯」の碑があります。これは、看護科の「看護への想い」を形にしたものです。ろうそくの灯火の中、ナイチンゲール誓詞を暗唱しつつ誓い、看護への決意を新たにし、看護実践者としての新たな一歩を踏み出しました。

第40回 川崎学園祭

統一テーマ：「Re-START!」

平成26年 10月11日㈯・12日㈰

- **川崎医科大学市民公開講座** 12日㈰ 10:00~11:00
  「疫病制圧に向けた大学の挑戦」
  終了後「研究者と話そう（meet the researcher）」
  医科大学校舎棟9階　M-911教室
- **川崎医科大学附属病院**
  医学講演会 11日㈯ 13:30~15:00
  「健康はいい呼吸から
  ーすこやかな呼吸を手に入れようー」
  講師 中田昌男（川崎医科大学 呼吸器外科学教授）
  （同附属病院副院長 呼吸器外科部長）
  現代医学教育博物館3階講堂
- **オープンキャンパス** 同時開催
- **第8回ホームカミングデイ** 11日㈯・12日㈰
  （川崎医療福祉大学同窓会）
  医療福祉大学3階レストラン
- **第3回松丘会ホームカミングデー** 11日㈯
  （川崎医療短期大学同窓会）
  医療短期大学体育館西側 学生ホール

《統一テーマ コンセプト》

川崎学園祭は、今年40回目の節目を迎えます。これからまた新しい川崎学園祭が始まります。学生のこれからの人生もよりよい方向に向けていこう、今までやったことのないことも始めていこう、ここから新たな自分を見つけていこう、そう思えるきっかけにこの川崎学園祭がなりますようにという思いを込めました。

※各種イベント情報等は決定次第、HPでお知らせします。

学園のなかま

2014年5月1現在

在学生	川崎医科大学	795名
	川崎医療福祉大学	3,728名
	川崎医療短期大学	1,093名
	川崎医科大学附属高等学校	75名
	川崎リハビリテーション学院	170名
教職員		3,517名
卒業生	川崎医科大学	4,074名
	川崎医療福祉大学	15,497名
	川崎医療短期大学	14,022名
	川崎医科大学附属高等学校	1,574名
	川崎リハビリテーション学院	1,781名
KAWASAKI CLUB登録者		39,407名

平成27年度 入試情報

1月25日、川崎医科大学一般入試（定員60人）には、開学以来最多となる1,559人が挑戦し、約26倍の狭き門となりました。

平成26年6月現在の情報です。詳細は各施設のホームページをご覧ください。

	試験区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
川崎医科大学	特別推薦入試	11/1～10	一次 11/15(土) 二次 11/29(土)	11/22 12/5	中国・四国地域枠 約15名 岡山県地域枠 約5名
	一般入試	12/8～1/16	一次 1/25(日) 二次 1/30(金)又は31(土)	1/27 2/4	約60名
	大学院	10/3～16	11/4(火)	11/21	25名
川崎医療福祉大学	AO入試	8/18～30	9/14(日) 10月上旬（総合審査）	10/2	97名
	特別入試・社会人特別選抜・帰国生徒特別選抜	10/6～25	11/2(日)	11/6	186名
	推薦入試	11/10～29	12/7(日)	12/11	170名
	一般入試前期	1/5～26	2/1(日)	2/5	279名
	一般入試後期	2/20～3/10	3/16(月)	3/19	31名
	センター試験利用入試前期（※1）	1/5～26	―――	2/5	63名
	センター試験利用入試後期（※1）	2/20～3/10	―――	3/19	30名
	編入学	8/13～20	8/29(金)	9/4	40名
	編入学二次	2/2～9	2/20(金)	2/26	若干名
	大学院入試 修士課程・博士後期課程1期	8/13～20	8/29(金)	9/4	修士 59名 博士若干名
	大学院入試 修士課程・博士後期課程2期	2/2～9	2/20(金)	2/26	修士 26名 博士 17名
川崎医療短期大学	AO入試前期	8/1～15	8/24(日)	8/29	60名
	AO入試後期	10/1～17	10/26(日)	10/31	40名
	推薦入試（指定校・公募）	11/4～21	11/30(日)	12/5	109名
	一般入試前期	1/8～26	2/2(月)	2/7	130名
	一般入試後期A（※2）・後期B（※3）	2/23～3/9	3/17(火)	3/19	31名
川崎医科大学附属高等学校	専願入試	1/5～15	1/18(日)	1/21	約20名
	一般入試	2/2～12	2/15(日)	2/18	約15名
川崎リハビリテーション学院	社会人特別入試	9/5～19	9/28(日)	10/3	8名
	推薦入試（指定校・公募）	11/4～21	11/30(日)	12/5	17名
	社会人入試	11/4～21	11/30(日)	12/5	8名
	一般入試	1/8～23	2/2(月)	2/7	17名

（※1）大学入試センター試験のみ利用し、個別学力検査等は課さない。
（※2）大学入試センター試験を利用する試験。　（※3）本学入試問題による試験。看護科、医療介護福祉科、医療保育科のみ。

オープンキャンパス・学校説明会 ※学園祭と同時開催

川崎医科大学
第1回　8月16日(土)　10:00～
第2回　10月11日(土)　10:00～
問合せ先☎086-464-1012 教務課

川崎医療福祉大学
第3回　8月 3日(日)　10:00～
第4回　9月21日(日)　10:00～
※第5回　10月11日(土)・12日(日)　10:00～
問合せ先☎086-464-1004 入試課

川崎医療短期大学
第5回　7月19日(土)・20日(日)　13:00～
第6回　8月17日(日)　13:00～
第7回　9月21日(日)　13:00～
※第8回　10月11日(土)・12日(日)　9:00～
問合せ先☎086-464-1033
教務課入試係

川崎医科大学附属高等学校
≪学校説明会：愛知≫
7月6日(日)　14:00～
会場：TKP名古屋駅前
カンファレンスセンター

≪学校説明会：福岡≫
7月6日(日)　14:00～
会場：TKP博多駅前シティセンター

≪学校説明会：本校≫
第1回　7月20日(日)　10:00～
第2回　8月24日(日)　10:00～
第3回　11月16日(日)　10:00～
問合せ先☎086-462-3666 事務室

川崎リハビリテーション学院
第2回　7月26日(土)　13:30～
※第3回　10月11日(土)　13:30～
問合せ先☎086-464-1179 事務室

詳細は各施設のHPをご覧ください。上記日程以外で個別に見学等をご希望の方は、各施設にお問い合わせください。

川崎学園各校は、優秀な教員と恵まれた実習環境による「医療に強い」教育、全国レベルを常に上回る高い国家資格の取得、ほぼ100%の就職率で、社会から高い評価を得ています。

▲毎回大人気の「附属病院見学ツアー」
附属病院各部署の全面的な協力で、日頃は見ることのできない病院内の施設を丁寧な説明付きでご案内し、充実した実習環境を肌で感じていただきます。

▲「学食体験」
川崎医療福祉大学では、学食の人気メニューや焼きたてパンが自慢のベーカリーカフェを体験。（無料）

KAWASAKI CLUB

KAWASAKI CLUBは、学園の卒業生と退職した職員を対象に、生涯学習・生涯教育の場として発足しました。情報誌として年2回「KAWASAKI CLUB NEWS」をお届けいたします。KAWASAKI CLUBの運営や「KAWASAKI CLUB NEWS」へのご要望ご提案をお待ちしています。
住所変更・カード紛失等がございましたら、メールか電話にてお知らせください。
また、「KAWASAKI CLUB NEWS」が届いていない方をご存じでしたら、情報（氏名、住所等）をお寄せください。
☎ 086-464-1546（いごよろしく）　✉ club@med.kawasaki-m.ac.jp　〒701-0192 倉敷市松島577（川崎学園内 本館棟8階）